平成２６年度学力向上アプローチ事業　研究指定校のまとめ

学校名 （児童数）	大津市立志賀小学校 （　８０１人）

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：大津市南志賀 1-5-1
電話番号：077-522-3729

【研究の目的、研究内容】

(1)研究主題

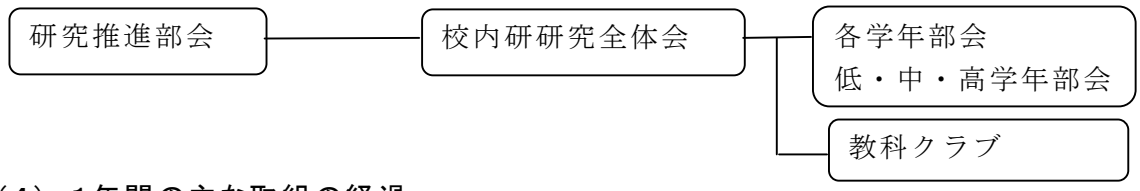
活用の学力を育てる授業の創造
～３つの視点から授業を構想する～

研究仮説
単元の本質に迫り、３つの視点（オリジナルタイトル・めざす子どもの姿・夢中になって学ぶ思考中心のヤマ場）から授業を構想すれば、自分の生活を力強く切り開いていけるような活用の学力を育てることができる。

(2) 主題設定の理由

本校では昨年度「活用」をキーワードにした授業改善の取組を進めてきた。その結果、
・単元のゴールを意識した活動を積み重ねることが、主体的に学ぶ子どもを育てることにつながった。
・子どもの思いから出発し自ら考えることに重点をおいた授業ができた。
一方、課題として
・「単元を構想する」教師の力量をもっと高めることが大切である。
・活用を日々の授業で生かしていくために、全校で共有できる指標作りが必要である。
ことなどが挙げられた。また全国学力・学習状況調査等児童の実態から、
・意欲を高めること。
・子どもの思考力をのばす授業、自力解決のある授業の必要性
が浮き彫りとなっている。
そこで、本年度は「活用の学力を育てる」「３つの視点から授業を構想する」という共通の基盤に立ち、日々の授業に生きるより具体的な取組を進めていきたい。

(3)研究体制



(4) 1年間の主な取組の経過

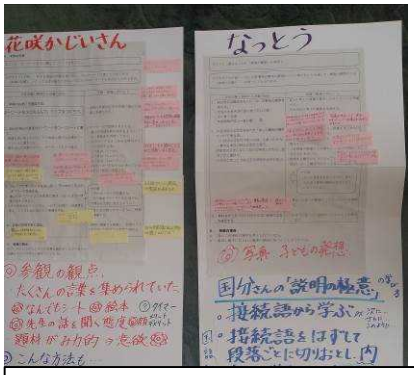
- 5月 1日（木）　全国学力・学習状況調査の自校採点
- 5月 28日（水）　第１回全体会（６年生国語科書く単元での演習）クラブ活動の計画
- 6月 25日（水）　教科クラブ活動（授業研究・実践交流）
- 7月 23日～25日　クラブ活動（授業研究・実践交流）
- 7月 28日（月）　第２回全体会（ワークショップ書くこと・２学期以降の取組）
- 10月 17日（金）　第１回授業研究会　６年生「ラスト１００日の６年生からの提言」
- 11月 4日（火）　第２回授業研究会　３年生「すがたをかえる大豆」

- 11月14日（金）　第３回授業研究会　１年生「むかしばなしがいっぱい」
- 12月　4日（木）　授業研究低学年部会　２年生「友だちのこともっと知りたい、もっと知らせたい」
- 1月23日（金）　第４回授業研究会　５年生「表やグラフを引用して書こう」
- 1月30日（金）　クラブ活動「偶然と必然の５人で作る〇〇科の本質」
- 2月10日（火）　授業研究中学年部会　４年生「アップとルーズ」
- 2月25日（水）　第５回授業研究会　ひまわり学級研究授業
  １年間の成果と課題「偶然と必然の３人で作る活用の学力を育てる授業の本質」

（5）具体的な研究内容･方法、研究を進める上での工夫点等

研究内容	方法や研究を進める上での工夫点等 **志賀小の売りです！**	授業の様子・子どもの姿 成果物 教師の声 **授業を参観して・・・ 実践して・・・**	成果と課題 **ここから見えてくる本質は？**
授業改善視点１「オリジナルタイトル」から単元を構想する	**各自が取り組んだ授業の中で、これは！と思うタイトルを出し合いました**	**実際の授業のタイトル例** 図工科「水で絵の具をおどらせよう」 生活単元「今月のクッキング HOW MUCH?」 体育科「おしりタッチにちょうせん」 「“ん”の字ジャンプで“ん”～っと遠くへ」 社会科「気温と降水量に注目！住みたい気候ﾗﾝｷﾝｸﾞ！」 算数科「線分図が教えてくれる式」 「式で伝える式をよむ」 おもしろいタイトルを考えることでその時間のねらいを自分の言葉で絞り込めるようになったと思います。 Ｙ先生 ☺	１．ねらいを子ども目線の言葉にすること ２．単元の本質的なおもしろさは何かを考えること ↑ タイトルをつけることでめざしたのはこんなこと
授業改善視点２「めざす子ども像」を毎時間意識して授業をする	**単元や本時の目標は子どもの具体的な姿で** 指導書の引き写しをしない	２年国語科「友だちのこと、もっと知りたい、知らせたい」 友だちのいいところを聞き出すための質問の仕方がすばらしい。相手の答えからさらに次の質問ができるのはまさに「活用」。	この道筋でぐ～んと授業が楽しく！ １．目の前の子どもの実態からつけたい力を考える ２．指導要領の目標を確認 ３．複数の教材や課題、迫り方を吟味し、ぴったりなものを選ぶ ４．めあてを達成している本時の子どもの姿を生き生きとえがく

	授業の中にめじとま（めあて・自分の考え・友だちの考え・まとめやふり返り）を入れる	ノート展 各学年の廊下にノート展のスペースを確保。美しくノートを仕上げるのが目標ではなく、次の学習に活用できる自分の学習のためのノート	めあてと学習の道筋を子ども自身が理解していることが大切
授業改善 視点３ ヤマ場から授業をふり返る	**研究会では、子どもの姿をもとに意見を出し合い、授業の再構成をします**	１年生国語科「むかしばなしがいっぱい」 ＊３人組で活発にクイズ作りに取り組む姿が見られた。 ＊国語科のめあてを考えるともっと学習の質を高められたのでは？	子どもの姿から授業をふり返る 話し合いの場面があることが大事なのではない。その教科でのつけたい力を明確にし教材研究していると、自然と話し合いや学び合いの場面が見えてくる
授業改善 各教科で	**教科クラブをやってます！ 単なるネタ紹介や自主的な学びで終わらずに教科や単元の本質に迫ることをめざして・・・**	算数科クラブより 授業の楽しさはアカデミックな楽しさで わかる・できる喜びによる自尊感情を育てることが生涯を通じて学ぶ子どもの育成になる 図、式、言葉でしっかりと人に伝えるための算数 公式活用は意味理解ができてから 活用していくことの良さを実感できる授業を。学習とは新しい文化を学ぶこと。新しい単元で新しい扉を開こう。アカデミックに楽しく学習できることが真の学力向上につながる。 ☺ 算数科クラブＳ先生	体育科クラブより 本当のおもしろさをおもしろいからできる できるからおもしろい ねらいとするのは、生涯にわたってプラスになること（心身の健康、人とのコミュニケーションなど） 子どもにとって必然性のある学習なのかが大切 子どもがおもしろいと思う体育学習を。（部活体育や休み時間の延長ではなく）子どもが汗をかき、息をきらす体育を。つけたい力をピンポイントで１つにしぼろう。 ☺体育科クラブＫ先生	どの教科にも活用できることは・・・ ①本質は楽しいことに宿る ②自力解決や活発な話し合い、技能の習得は最終のめあてではない ③伝えること、人とのコミュニケーションが大事
志賀小の基礎・基本	**『志賀っ子タイム』で毎日１０分間言葉の学習 ↓ 『志賀っ子タイム』は志賀小のよさを育てる黄金の時間**	単に言語の力をつけるだけでなく、人とのコミュニケーションの楽しさ・大切さを実感できる時間に 「ひろげようの金曜日」 学年ごとに代表の児童がTVの生放送で全校に発表 聞いている側の学びを大切にしています。聞いたことをもとに同じ活動をやってみるなど、活用＝ひろげることをねらいに。	志賀っ子タイムで培ってきたこと ①支持的な学級・学校の風土作り ②自分の言葉で語れる子どもに ③授業の中での交流や話し合い活動の素地を養う

行動する教師	**教師も子どもと同じ活動をやってみる** **志賀小の授業研究会は熱い！** 研究授業ごとにくじでグループを決め、話し合います。発表も自主的に。	 自分が書いてみることでこのテーマは楽しく書けるということがわかり、単元構成が進みました。また、交流の必然性も見えてきました。 ６年生国語科 「ラスト 100 日の６年生からの提言」  研究会では積極的に意見を言っています。子どもの姿から語れることに経験年数は関係ないと思うのでこれからもどんどん発言していきます。 教職３年目Ｋ先生 ☺	書くことの本質は 書くことはおもしろい！ 考えをまとめようと思わずにまずはえんぴつを動かそう、あふれるようにどんどん書こう、そして書くことを通して自分の思いや考えを知って人に伝えられたら素敵。そんな学習が学力向上につながる わたしたちも学び合おう このメンバーで同じ職場で働ける偶然を必然に変えて ・・・ すべての出会いに感謝！

【研究成果と課題】

（１） 研究成果

研究主題において授業改善の３つの視点を示したことで、授業へのアプローチが昨年度より具体的に進められるようになった。各学年の研究授業では、子どもの実態から出発し、教科書の教材を吟味し、課題設定に工夫のある授業をすることができた。また、授業研究会では所属の学年や経験年数を超えて、子どもの姿から授業を考えていこうとする教師集団の高まりがみられた。

各学年の実態に合わせ、書く活動を積極的に取り入れた学習形態の研究が進んだ。また、１時間の授業の中で「めじとま」を意識し、子どもにとってめあてがはっきりとわかり、学習したことを振り返る授業形態が定着した。ノート展を見ても、４月と比べると、子どものノートの質の向上がうかがえる。

評価問題においては、４月の全国学力・学習状況調査よりも無回答率が減った。ただ問題を解くだけではなく、問題に取り上げられていることが、ふだんの授業の中で活用できる学習形態であるととらえることができ、意欲的に問題に取り組む姿が見られた。

（２） 課題

評価問題において、無回答は減ったものの、複数の条件を満たしていないものや、問題の文意をとらえられていないものも目立った。個人差をどう埋めていくかが今後の課題である。また、授業改善の３つの視点はあくまで手段であり、それを通してよりよい授業をつくっていけるかはさらに研修が必要である。また、評価問題や全国学力・学習状況調査以外で子どもの伸びをどう評価するかの指標づくりができていないことは大きな課題である。